



沖縄の経済基盤の拡大と可能性

(8月のごあいさつ)

平成28年8月1日(月)

沖縄の夏は、青い空と碧い海と炎い太陽です。

平成27年度の全国の外国人観光客数は1,974万人に達し、中国人観光客を中心にその167万人(8.5%)が沖縄を訪れたそうである。政府は、オリンピックの2020年には4,000万人の外国人観光客を計画している。観光という沖縄の基幹産業に大きなチャンスが訪れつつあるようだ。この変化には持続性があり、**沖縄の経済基盤**の拡大につながる現象かも知れない。

というのは、沖縄は今まで**分母としての経済基盤**が小さく、海洋博やサミットや観光開発などに伴うホテルや施設の先行投資などが行過ぎ、**経済的に大きな振幅を経験**した。そしてその上下の変動は良きにつけ悪きにつけみるべき産業が根付かないことの証左とされてきた。

もし、経済基盤が拡大すれば**今後の産業や経済の様相**は違ったものになる。

ただ、外国人観光客が増加するなかで、国際通りの再開発はいまだ**点**に取り組んでいるレベルではないかと思う。**点の開発**とは、ホテルやマンションや新しいショッピングセンターの計画である。現状は、似たようなみやげ物店や飲食店など従来型の店舗が増加し、活況を呈している。この**雑然とした線**が特色なのかもしれないが、将来を考えたとき、望ましい展望や発展性は感じられない。点の開発と併せて**線へと展開**するイメージが実現し、将来はそれが、**沖縄を代表する面へ発展**しなければならない。今回の観光市場の変化が経済基盤を変えるためには飛躍が必要である。

情報過多と物あまりの時代の中で、消費者の情報のとらえ方や価値観も変化して来ている。このような変化の中で外国人観光客の激増などによる**沖縄の可能性**を考えた場合、経済基盤の拡大を伴っての青い空と海、地理的な条件、人口ピラミッド、暖かい気候、人口の増加、格差社会、女性管理者の比率大、台湾や東南アジアとのコラボ……などの沖縄の特性は、従来とは違ったインパクトを産業と経済に与えることになる。

今、沖縄はその**可能性を発揮**するチャンスだと思う。時に臨んでは**目標の角度**が大切である。角度が正しければ、ロケットは月へも向うことができる。既存の企業のビジネスモデルを改革し、来るべき顧客の感性と要求を的確にとらえ、古いものを放棄し、新しい可能性に挑戦すべきである。

経済基盤の拡大とともに**新しいビジネスモデル**が必要であり、**観光、流通**における**人材育成**も大きな課題である。